



# 駒本の力

駒本小学校（家）

教育活動紹介便り

NO. 36

平成28年12月1日

## がんばったの一行詩作品集

校長 田中 克昌

少し前の事になりますが、運動会や学習発表会の準備と2学期に自分たちががんばったことを一行詩にしました。素敵な作品がたくさんありましたので、いくつかを紹介します。

### 【1年生】

- ・水ようび、けんぱんハーモニカをがんばったら、先生にほめられてうれしかったなあ。
- ・運動会のはじめのことばをいっばいれんしゅうしたら、運動会でほめられました。
- ・ぼくががんばったことは、おうえんがっせんで声がかれるまでおうえんしたこと。

### 【2年生】

- ・がんばってダンスをおどったら、みんなといっしょに先生にほめられた。そのときの気持ちは、とてもうれしかった。
- ・かけっこで二位だったら、お母さんが「二位でもすごいね。」とってくれた。うれしかったよ。
- ・学習発表会の練習で、大きな声を出してがんばったら、今の声、よかったよと言われて、うれしくなった。

### 【3年生】

- ・算数の百マス計算で記録更新できるように集中して取り組んだ。もう少しだからがんばるぞ。
- ・運動会あせをかきせいいっぱい大声だしたけど、少しのところまでまけた。でも雨の中も熱い日も、練習をやってきたからとても楽しかった。
- ・駒本コンサートにむけて、リコーダーをがんばっていて、たまにへんな音が出ちゃう時もあるけど、みんなで吹くときに、みんなのゆっくりなテンポに、速くならないように合わせたら、きれいな音が出たよ。

### 【4年生】

- ・老人ホームで交流会をした時に、同じグループの方はとても喜んでくれた。とても嬉しかった。
- ・三年生に一輪車が上手になってもらうためにがんばって教えていたら、最後に「ありがとう」とってくれた。
- ・運動会の応援団、みんなのために朝早くから学校に来て練習したよ。その成果を出せて応援賞をとれたんだ。うれしかったな。

### 【5年生】

- ・運動会の組体操でインフィニティを何度も失敗して、ぼくは心が動いた。運動会を成功させようと思った。

・組体操の練習で、がまんするという大切さを学んだ。心の成長の第一歩をふんだ。

【6年生】

・陸上記録会の走り高跳び、足あげ、高くジャンプを最後まで続けたことで、自己ベストを三センチも更新した。

・運動会の組体操、インフィニティーが息が合わなかったり、失敗したり、うまくいかなかった。だから、本番みんなを信じて一番下の土台でがんばったら大成功。嬉しかった。

・最後の運動会で、組体操の難しい技を練習した結果、心を合わせることができた。終わった後の拍手が嬉しかった。

## 夢や希望や目標を子どもたちにもたせるために！

最近の子どもたちは夢をもっている子が少ないとか、将来に向けての目標をもっている子が少ないとか、言われることがあります。本当にそうなのでしょう？私は決してそんなことはないと考えています。私が小学生だった頃には、将来に向けての夢なんかもっていませんでした。中学生になって初めて、パイロットになりたいとか、医者になりたいとか、弁護士になりたいとか、という夢をもつようになりました。まあ、どの夢も能力的にも努力の面でもなかなか及ばず、最終的に教師という道を選択したのは、大学入試の頃でした。小学生の頃は、毎日ひたすら遊ぶことばかり考えていましたし、実際のところそうでした。

しかし、最近の子どもたち、特に駒本小の子どもたちの多くは、将来の夢や希望を心に抱いている子がたくさんいます。また、直近の目標に向かって地道な努力を続けている子もたくさんいます。今回紹介した一行詩はそんな子どもたちの努力の姿を少しでもお伝えできればと思い紹介しました。

さて、夢や希望や目標を子どもたちにもってもらうためには、大人である私たちは何をしなければならぬのでしょうか？

学校では、生き方教育としてキャリア教育が実施されています。また、直近の目標を子どもたちに立てさせながら、それに対する努力の状況を見取り、アドバイスしています。夢や希望や目標は努力によって近づき、かなうものであるのだということを私たち大人が身をもって知らせ伝えることが大切なのかもしれません。さらに、その夢や希望や目標に人としての志を掲げられるようにしたいものです。志とは、〇〇になりたいというレベルではなく、〇〇になってこれこれをしたいというレベルの意志です。医者になって病気で苦しんでいる人を一人でも助けたい。弁護士になって、社会的に困っている人の役に立ちたい。命は自分に与えられた時間です。その貴重な命を自分だけではなく、だれか人のために使い、役に立とうとすることこそが志だと思います。

末期癌と戦いながら余命いくばくもない方が、老人介護のボランティアをしながら、自分の命である時間を使っている文章を読んだとき、「人は人のために生きてこそ人となる」という言葉が浮かびました。堂々と自分の志を掲げられる子どもたちを一人でも多く育てていきたいと思っています。